

第53回 2021（令和3）年
社会保険労務士試験

T A C 社会保険労務士講座

本試験分析

この資料は、第53回本試験実施後、受験者の皆様から寄せられた復元解答を元に、選択式及び択一式試験の平均点、得点分布等を算出し、分析結果を記載したものです。

本試験問題の「解答・解説」「科目別のコメント」「択一式問題の難易度一覧表」等につきましては本試験終了後に実施したオンライン解答解説会時配布資料に掲載しております。

なお、この資料の分析結果は、あくまでも復元解答を元に作成した現時点でのT A Cの見解であり、第53回本試験の結果を保証するものではありません。

途中の分析過程を省き、総合ラインのみ確認したい方は、P.7へ

※2021（令和3）年「社会保険労務士データリサーチ」を利用された皆様へ
画面上に表示されている点数・利用者数等と、当資料で用いている点数・利用者数等は異なっています。これは、「A, A, A, A…」 「1, 1, 1, 1…」といった本試験において実際に解答されているものとは異なると予想されるものや免除科目のある方等をデータ上から除き再集計しているためです。あらかじめご了承ください。

第53回社会保険労務士試験 分析資料

選択式試験

●TACデータリサーチより

年	基安	労災	雇用	労一	社一	健保	厚年	国年	計	合格点	合格率
2021 (R3)	3.9	4.3	3.8	1.9	3.4	3.9	3.5	3.2	28.0	?	?
2020 (R2)	3.0	4.6	4.5	2.4	2.9	3.4	4.0	3.6	28.5	25	6.4
2019 (R元)	4.3	4.6	4.5	3.1	2.3	3.9	4.2	4.3	31.3	26	6.6
2018 (H30)	3.3	4.0	4.4	3.0	3.0	4.0	3.4	2.8	27.9	23	6.3
2017 (H29)	4.3	4.4	3.7	2.9	3.5	2.7	3.9	3.7	29.0	24	6.8
2016 (H28)	4.2	4.3	2.8	2.1	3.5	3.3	3.2	3.9	27.3	23	4.4
2015 (H27)	3.9	2.6	3.8	1.9	3.2	2.8	3.1	3.2	24.5	21	2.6
2014 (H26)	4.1	4.2	4.3	3.0	4.0	3.6	4.1	4.8	32.2	26	9.3
2013 (H25)	3.9	1.9	3.6	3.3	1.9	2.1	3.8	4.4	24.9	21	5.4
2012 (H24)	4.0	4.8	3.8	4.1	2.7	3.6	2.9	4.3	30.2	26	7.0

※白抜き数字は2点（2013年の社一は1点）可とされた科目

■□■今年度の選択式試験の特徴及び従来との比較■□■

◇平均点は28.0点と昨年を0.5点下回っており、合格基準点が23点とされた2018年に比較的近い水準となっている。

◇労災の空欄Dは、「⑤55」を正答として採点しているが、「⑥60」が正答となる可能性があり、「⑥60」が正答となる場合は、全体の合格ライン予想に影響が出る可能性がある。

◇最も点数が伸びていなかった科目は「労一」で、平均点は1.9点と、2点補正が行われた昨年の2.4点を下回っている。

●点数の分布割合等

(単位：%)

割合	基安	労災	雇用	労一	社一	健保	厚年	国年
0点	0.1	0.0	0.4	6.3	1.0	0.4	0.4	0.9
1点	0.7	0.2	1.7	26.3	4.3	1.2	2.2	5.3
2点	5.1	2.0	8.3	41.1	14.2	5.5	8.8	19.6
3点	21.8	10.0	26.2	20.5	31.3	21.4	33.7	35.1
4点	43.0	39.2	38.2	5.1	33.2	41.3	41.7	27.1
5点	29.3	48.6	25.2	0.8	16.0	30.2	13.2	12.0

3点以上割合	94.1	97.8	89.6	26.4	80.5	92.9	88.6	74.2
2点以上割合	99.2	99.8	97.9	67.5	94.7	98.4	97.4	93.8

択一式試験

●TACデータリサーチより

年	基安	災徴	雇徴	常識	健保	厚年	国年	計	合格点	合格率
2021 (R3)	6.3	6.0	6.0	5.9	6.2	6.8	7.2	44.4	?	?
2020 (R2)	6.6	6.8	6.4	5.6	5.7	6.4	6.2	43.6	44	6.4
2019 (R元)	6.0	6.5	6.2	5.5	5.5	6.9	6.0	42.5	43	6.6
2018 (H30)	6.7	7.0	6.4	5.2	6.9	6.3	5.9	44.4	45	6.3
2017 (H29)	6.3	6.0	6.4	5.6	6.8	6.1	7.1	44.3	45	6.8
2016 (H28)	5.7	6.0	6.2	5.4	5.6	5.8	4.8	39.4	42	4.4
2015 (H27)	6.4	6.1	5.6	5.4	5.2	6.5	6.1	41.4	45	2.6
2014 (H26)	6.6	6.5	6.2	4.9	7.0	6.9	6.2	44.3	45	9.3
2013 (H25)	7.1	6.6	6.4	6.3	5.9	6.3	5.8	44.4	46	5.4
2012 (H24)	6.6	7.1	5.5	5.6	7.8	6.9	6.1	45.5	46	7.0

※白抜き数字は3点可とされた科目

※2020年 労災問6は出題誤りのため全員正答

※2015年 雇用問6は出題誤りのため全員正答

■□■今年度の択一式試験の特徴及び従来との比較■□■

◇平均点は44.4点と昨年を0.8点上回っている。

◇組み合わせ問題は、社保関係科目を中心に5問と昨年の9問から減少、個数問題は昨年の2問から1問増えて3問の出題であった。

◇最も平均点の高い科目は[国年]の7.2点、最も低いものは[常識]の5.9点となっている。

また、平均点が7点以上となる科目があるのは、2018年の[災徴]以来となっている。

●点数の分布割合等

(単位：%)

割合	基安	災徴	雇徴	常識	健保	厚年	国年
0点	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.2	0.1
1点	0.2	0.4	0.6	0.6	0.5	1.3	0.4
2点	1.2	1.5	2.4	2.3	2.4	1.7	0.9
3点	3.1	4.8	4.6	4.2	4.3	3.3	1.8
4点	9.6	10.5	9.3	12.4	9.0	6.0	4.4
5点	15.6	18.4	19.9	18.5	16.3	10.5	7.2
6点	24.0	23.3	22.3	24.4	21.4	15.5	14.5
7点	25.6	21.3	22.3	21.1	21.1	20.0	22.4
8点	13.6	14.5	13.3	11.4	16.7	23.5	24.5
9点	5.9	4.3	5.0	4.5	6.4	13.4	17.3
10点	1.1	0.9	0.4	0.4	1.9	4.6	6.4

3点以下割合	4.5	6.8	7.6	7.3	7.2	6.5	3.2
---------------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

【総合得点の検証】

●選択式の総合得点

厚生労働省が公表している、「社会保険労務士試験の合格基準の考え方について」(以下、「合格基準の考え方」という。)をみると、合格基準点は、満点の7割である「28点」を基本とし、全体の平均点を考慮した上で、前年の合格基準点を調整することとされている。

詳細なデータは後述するが、データリサーチの集計結果の平均点と過去の本試験の実際の平均点を比較すると、年によってある程度の誤差はあるが、本試験の結果に対してデータリサーチの集計結果は約7点程度高く出る傾向がある。これは、データリサーチの利用者が比較的得点の高い受験生に偏っている傾向にあるためと考えられる。また、実際の本試験の平均点が大きく上下した場合には、データリサーチの平均点も同様の動き方を示す傾向を示しており、両者の動きにはある程度の共通性があると推測することができる。本年度も同様であれば、昨年よりも合格基準点は引き下げられる可能性が高い。

●択一式の総合得点

選択式同様、「合格基準の考え方」をみると満点の7割である「49点」を基本とし、全体の平均点を考慮した上で、前年の合格基準点を調整することとされている。

択一式の平均総合得点（44.4点）は、44点が合格基準点であった昨年のデータリサーチ結果と比較すると、+0.8点の上昇となっている。

こちらにも詳細なデータは後述するが、データリサーチの集計結果の平均点と過去の本試験の実際の平均点を比較すると、本試験の結果に対してデータリサーチの集計結果は約12点程度高く出る傾向がある。選択式同様、データリサーチの利用者が比較的得点の高い受験生に偏っているためと考えられるが、やはり、実際の本試験の平均点が上下した場合には、データリサーチの平均点も同様の動きをする傾向があり、両者の動きには、選択式同様ある程度の共通点が見られる。前述の通り、データリサーチの択一式総得点の平均点は44.4点と昨年と比較し、0.8点の上昇となっているため、昨年の合格基準点よりも引き上げられる可能性が高い。

【合格基準補正（いわゆる救済）の可能性について】

●選択式の合格基準補正の可能性

前述の「合格基準の考え方」で「科目最低点の補正」の考え方を見てみると、補正（いわゆる救済）については、以下のように記されている。

各科目の合格基準点（選択式3点、択一式4点）以上の受験者の占める割合が5割に満たない場合は、合格基準点を引き下げ補正する。

ただし、次の場合は、試験の水準維持を考慮し、原則として引き下げを行わないこととする。

- i) 引き下げ補正した合格基準点以上の受験者の占める割合が7割以上の場合
- ii) 引き下げ補正した合格基準点が、選択式で0点、択一式で2点以下となる場合

今年の実験式試験では、全科目のうちで平均点が3点未満の科目は[労一]1.9点との1科目となっている。[労一]の3点以上割合を見てみると、26.4%であり、上記の補正が行われる要件を満たしている。また、同科目の2点以上割合を見てみると、67.5%と、上記の補正が見送られる要件となる、「引き下げ補正した合格基準点以上の受験者の占める割合が7割以上の場合」にも該当していない。前述の通り、データリサーチの利用者が比較的得点の高い受験生に偏っている傾向にあることを考慮すると、[労一]の2点以上割合は受験生全体で見るとデータリサーチの数値よりも下がる可能性があり、同科目については、昨年に続き2点補正が行われる可能性は高いといえる。

●択一式の合格基準補正の可能性

今年の択一式試験のデータリサーチの平均点は、昨年より高くなっている。また、極端に平均点が低い科目もなく、いずれの科目についても、補正が行われる可能性は低いと思われる。しかし、過去のデータリサーチの集計結果と本試験の結果を見ると、2017年の[厚年]のように、データリサーチの平均点が決して低いわけではないが、補正が行われた科目も存在している。受験生全体のデータを見てみないとはっきりしたことはわからないが、現時点で補正が行われる可能性は低いといえよう。

総合的な合格基準分析

【参考1】過去の本試験結果とデータリサーチの結果

	選択式				択一式			
	リサーチ 平均(a)	本試験 平均(b)	合格 基準点	(a)-(b)	リサーチ 平均(a)	本試験 平均(b)	合格 基準点	(a)-(b)
2012 (H24)	30.2	23.4	26	6.8	45.5	33.0	46	12.5
2013 (H25)	24.9	18.5	21	6.4	44.4	33.0	46	11.4
2014 (H26)	32.2	23.1	26	9.1	44.3	31.6	45	12.7
2015 (H27)	24.5	18.6	21	5.9	41.4	31.3	45	10.1
2016 (H28)	27.3	20.5	23	6.8	39.4	28.8	42	10.6
2017 (H29)	29.0	21.3	24	7.7	44.3	31.9	45	12.4
2018 (H30)	27.9	20.5	23	7.4	44.4	32.1	45	12.3
2019 (R元)	31.3	23.7	26	7.6	42.5	30.2	43	12.3
2020 (R2)	28.5	22.7	25	5.8	43.6	31.5	44	12.1

【参考2】データリサーチ結果に基づく合格基準点の予想

	選択式				択一式			
	リサーチ 平均	予想 本試験 平均点	予想 合格 基準点	過去*の (a)-(b) の平均	リサーチ 平均	予想 本試験 平均点	予想 合格 基準点	過去*の (a)-(b) の平均
2021 (R3)	28.0	20.9	23	7.1	44.4	32.1	45	12.3

※TACデータリサーチにおいて分析可能な2007 (H19)年から2020 (R2)年の平均

- ここまで述べてきた通りデータリサーチの平均点は、本試験全体の平均点よりも高い数値となる傾向があるが、上がり下がりについては、本試験全体の平均点と同様の動きとなる傾向がみられる。このことから考えると、データリサーチの結果から、本試験全体の平均点を推測し、本年度の合格基準点を予想していくことがおそらく最も現実的であろう。
- まず、選択式であるが、データリサーチの平均点は、28.0点であり、前年のデータリサーチ平均点28.5点に対し、-0.5点となっている。本試験全体の昨年の平均点は22.7点、過去のデータリサーチ平均点と本試験平均点の乖離の平均値は7.1点となっており、ある程度の誤差があることは否めないが、本年の本試験平均点は、20.9点と予想できる。対前年で考えると、-1.8点となり、これを公表されている「合格基準の考え方」にある、「総得点について、前年度の平均点との差を小数第1位まで算出し、それを四捨五入し換算した点数に応じて前年度の合格基準点を上げ下げする（例えば、差が-1.4点なら1点下げ、+1.6点なら2点上げる。）」という考え方にあてはめると、本年度の合格基準点は、23が有力となる。また、補正についてはP.5で述べたように、データリサーチの数値からみる限り、「[労一]が「2点」とされる可能性が高い。

- 3.** 次に、択一式であるが、選択式と同様に考えていってみよう。本年のデータリサーチの平均点は44.4点で、前年の43.6点と比較して若干上昇している。本試験全体の昨年の平均点は31.5点、過去のデータリサーチ平均点と本試験平均点の乖離の平均値は12.3点である。以上の内容から、本試験の平均点は32.1点と予想でき、前年の平均点から+0.6点となる。「合格基準の考え方」では、「前年度の平均点との差を小数点第1位まで算出し、それを四捨五入し換算した点数に応じて前年度の合格基準点を上げ下げする。」としているため、昨年の本試験の合格基準点より1点高い45点が有力となる。択一式の補正の可能性であるが、本試験とデータリサーチとの乖離により、全く可能性がないとは言えないが、P.6でも述べた通り、補正が行われる可能性は低いと思われる。
- 4.** 本年度の本試験の難易度をデータリサーチの平均点で見ると、選択式は昨年よりも若干高く、択一式は若干易しくなっている。選択式については、昨年「[労一]」で統計の名称と調査対象の組み合わせが問われたのに続き、今年も助成金の名称等を問う奇をてらった出題があり、多くの受験生が戸惑ったのではないだろうか。合格基準の設定や選択式の補正については、P.4から触れた通りだが、補正については「本来の基準点を下回る人の割合が高い」場合に行われることが分かっているが、全体の得点分布によっては補正が見送られたり、データリサーチの内容からは予想することが困難な科目が対象となることもあり、完全な予測をすることは困難である。また、択一式の合格基準も本試験での実際の得点分布や平均点を完全に把握することは困難であり、絶対と言うことはできないが、データリサーチの結果から考えた場合、現状では前記**2****3**で述べた合格ラインが有力であると考えられる。